



府中二中だより

令和6年度スローガン 「笑顔満開の学校」

令和6年度
9月19日発行
令和6年度9月号
府中第二中学校
校長 成清敏治
電話 361-9302

「心理的虐待」と「レジリエンス」

これからお話することは、学校側とか保護者側ということではなく、大人としてどう取り組むか、という話になりますので、よろしく願いいたします。

この夏、1冊の本を読みました。『心理的虐待』という本です。帯に「その言葉が、行動が、子供の心と脳を傷付ける」とあります。心理的虐待とは、児童虐待防止法第2条に「児童に 対する著しい暴言又は著しく拒絶的な対応、児童が同居する家庭における配偶者に対する暴力（略）その他の児童に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと」と定義されています。心や脳への影響は外見からはわかりませんが、最近の脳科学の知見で、大人の言動によってどれだけ傷付いているかが、子供の心身や脳の発達から異常を来してからわかるケースが増えてきました。症状が出てからでは遅いことは言うまでもありません。また、教育虐待が多くなっている事例が紹介されていました。過度な期待、やりたくないことの押し付け、きょうだい間、友人間の比較などが挙げられています。「もっとできるでしょ」「何でできないの」「お兄ちゃんの方が勉強できる」「お姉ちゃんはこの高校に行った」など、大人側はしつけの一環や学習が遅れる、進まないことを心配して言ったつもりでも、受け取る子供は全く次元が違うことがわかってきました。不適切な発言や行動の影響は、大人になって生きづらさを一生引きずることが証言などから得られています。もっと大人の側が余裕をもち、一生のスパンで学習という作業を見取る必要があるのではないのでしょうか。

今年の夏は、南海トラフ地震臨時情報や連日の猛暑、ゲリラ豪雨や台風の影響で交通網が寸断され、今までの常識が通用しないことが多々ありました。今後の予測不可能で未知の世の中に挑んでいくには、『レジリエンス』が必要だと言われています。どんな困難でもしなやかに乗り越えていく力です。これも大人、子供の区別はありません。ノーベル賞を受賞した山中伸弥 iPS 細胞研究所教授は、師匠からレジリエンスの言葉を教えてもらい、それを身に付けるのは「感謝」に尽きることを心に刻みました。地球的規模で捉えれば、この地球上で人類が生存できるのは、生命体の一部からです。人類は植物や魚、動物の命をいただいて、自分の生命を存続させています。だから人間にも、持続可能な地球を目指していくべき、責任や義務そして使命があるはず。一人では生きていけないのと同様、人類もその種だけでは生きていけません。そのような遠大なテーマ(地球という生命体を持続させていくための方途を共に探る)を学校や家庭で追究できる環境、子供と対話できる大人が絶対的に必要な時代になっています。大人も子供の未知の課題に対し、「実践共同体」として、どのような社会を形成していくかを考えていかなくてはなりません。その協働作業が人間への信頼となり、感謝となり、レジリエンスを生み出す原動力になることは間違いありません。



学校・地域・保護者の連携が叫ばれて久しくなります。私見になりますが、これは単なる教育交流、協力体制を構築するようなイメージではなく、子供たちの未来のために、大人がどう自分を磨き、子供の模範となり、持続可能な社会を話し合う機会を作るか、それが真の意味での連携だと確信しています。今年から「オトナの学び」として、学校行事への参加を地域や保護者の皆さまに呼び掛けています。ぜひ多くの皆さまに参加していただき、生徒との共通の課題・解決に導く対話を通して、生徒が未来に希望をもてる、又自分らしく前向きな生き方が自信をもってできる社会になるよう、大人が協力して学び、平和な世の中を目指していきたいと考えます。子供の安全基地を確保できているか、このことが今大人の側に問われています。（保護者会 9月5日）

生徒会役員 始動！

9月10日（火）に生徒会選挙・立会演説会が行われました。厳正な選挙の結果、以下の生徒が役員に選出されました。これから1年間、二中の柱として頑張ってください。（新役員：敬称略）

【新役員】 会長 青木優虎
 役員 鈴木皓大 山本萌花 小泉歌音
 小島美結菜 田中笑里 一ツ松咲詠



学校において生徒会という組織は、生徒の皆さんの意見を集約して、より良い学校づくりを目指す上で、とても重要なものです。投票する行為も重要で、公約やビジョンを聞いて、それが実現することで学校全体が良くなるか、自分たちが過ごす学校生活が楽しく充実したものになるか、そのような視点で投票行為をすることが大切です。ただし、公約を掲げたからといって、それがすべて実現するとはいえません。その理想が果たして学校生活や学習活動の充実につながるか、この点に時間をかけて協議する必要があります。今年から生徒の代表と校長と関谷先生で、学校生活改善会議を2か月に1回設定して、学校内部の様々な対応を考える機会を作りました。そこに各学年や委員会、生徒会は意見を集約して、改善会議にもってきてください。価値や意味がなく、単に実施したいだけの取組は、学校生活を送る上で必要はありません。なぜ行う必要があるか、それを実行すると改善が期待できるなど、皆さんの知恵を絞って、二中がもっと良くなるように意見を挙げてください。（立会演説会 9月10日）

生徒の活躍（敬称略）

【水泳部】 ◎多摩大会入賞者

戸塚珠貴	男子200m個人メドレー	5位	男子100m個人メドレー	6位
	男子200m背泳ぎ	4位		
中村優心	男子400m自由形	5位	男子100mバタフライ	2位
岩瀬藍里	女子100mバタフライ	3位	女子50mバタフライ	5位
古賀壱華	女子100m個人メドレー	7位	女子200m自由形	8位
	女子200m個人メドレー	8位		
鈴木初子	女子200m背泳ぎ	8位		
原菜々美	女子100m個人メドレー	8位	女子50mバタフライ	7位
岩瀬 古賀	相田 鈴木組	女子4×100mメドレーリレー	7位	
岩田 吉田	中村 戸塚組	男子4×100mメドレーリレー	7位	
田中 原 石井	笠原組	男女混合4×50mメドレーリレー	8位	
岩瀬 相田 鈴木	古賀組	女子4×50mメドレーリレー	6位	
田中 原 笠原	石井組	男女混合4×50mフリーリレー	5位	
古賀 相田 鈴木	岩瀬組	女子4×50mフリーリレー	7位	